

# 公的年金の積立金運用 GPIF 運用実績

## 過去最大 37 兆 8000 億円黒字

2021 年 7 月 2 日 17 時 39 分

公的年金の積立金を運用している GPIF(日本において厚生年金と国民年金の年金積立金を管理・運用する機関。厚生労働省が所管する独立行政法人)は、昨年度、令和 2 年度の運用実績が過去最大のおよそ 37 兆 8000 億円の黒字になったと発表しました。

公的年金の積立金を運用している GPIF は 2 日、昨年度、令和 2 年度の運用実績を発表しました。

それによりますと、昨年度の収益は 37 兆 7986 億円の黒字で、収益率はプラス 25.15%と、いずれも過去最大となりました。

GPIF は、主要国が景気対策のために財政出動を行ったことで、国内外の株価が上がったことによるものと分析しています。

収益の内訳をみますと、

▽外国株式が 20 兆 6658 億円

▽国内株式が 14 兆 6989 億円

▽外国債券が 2 兆 6738 億円の、

それぞれ黒字となった一方、

▽国内債券は 2398 億円の赤字となりました。

これにより、

▽累積の収益額は 95 兆 3363 億円となり

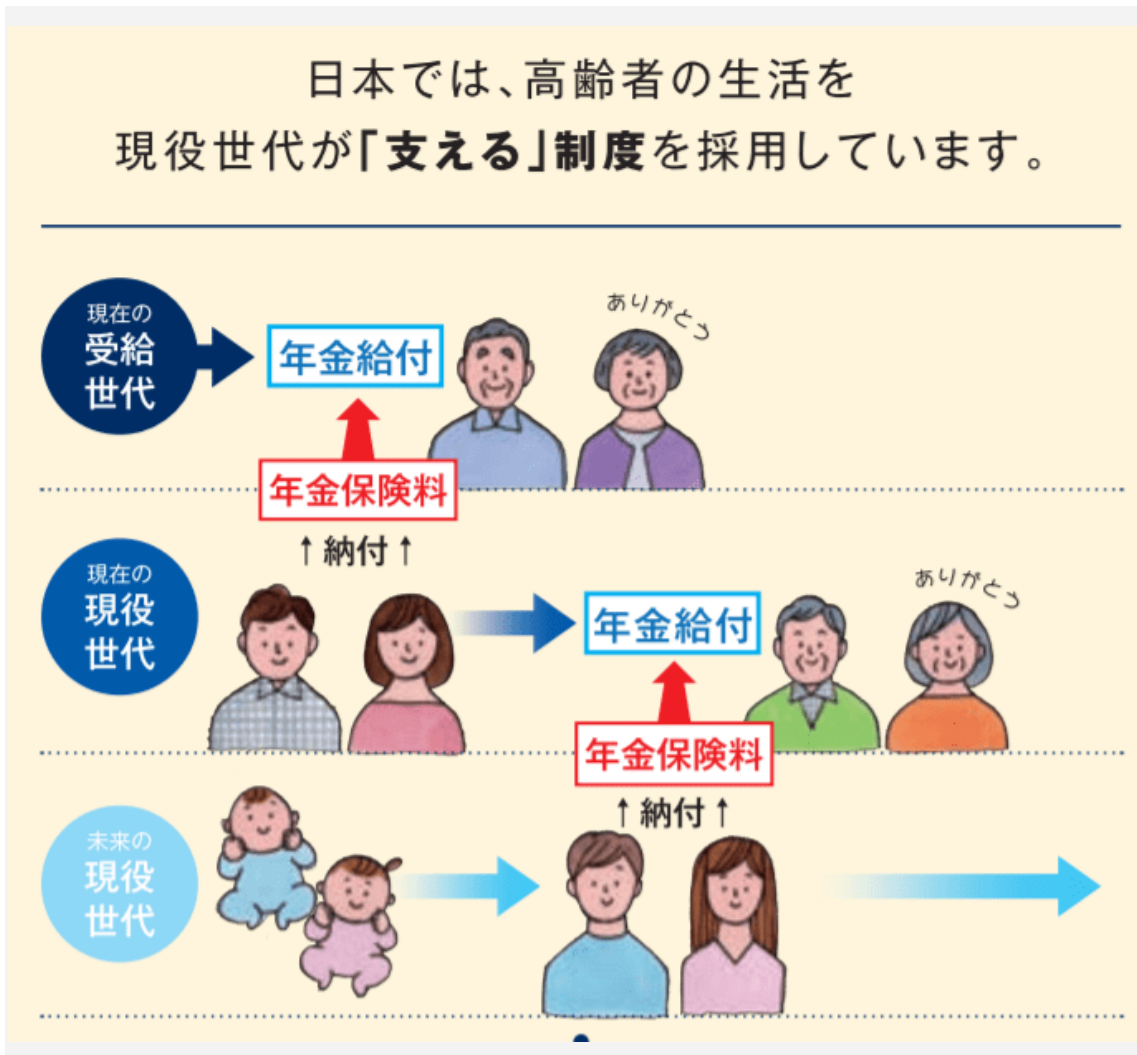
▽GPIF が運用する資産の総額は、ことし 3 月末現在で 186 兆 1624 億円となりました。

宮園雅敬理事長は、記者会見で「25%を超える収益率は、歴史的に見ても特別に高い水準だが、今年度は一方的な株価の上昇は見込み難いので、よりきめこまやかなリスク管理をする必要がある。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済再開の機運が高まる見通しがある中、市場や政策がどう動くか注視していく必要がある」と述べました。

## ①日本の年金制度と GPIF の運用目的

年金制度の目的については、リベ大でも何度もお伝えしていますが、大切な話なのであらためて確認しましょう。

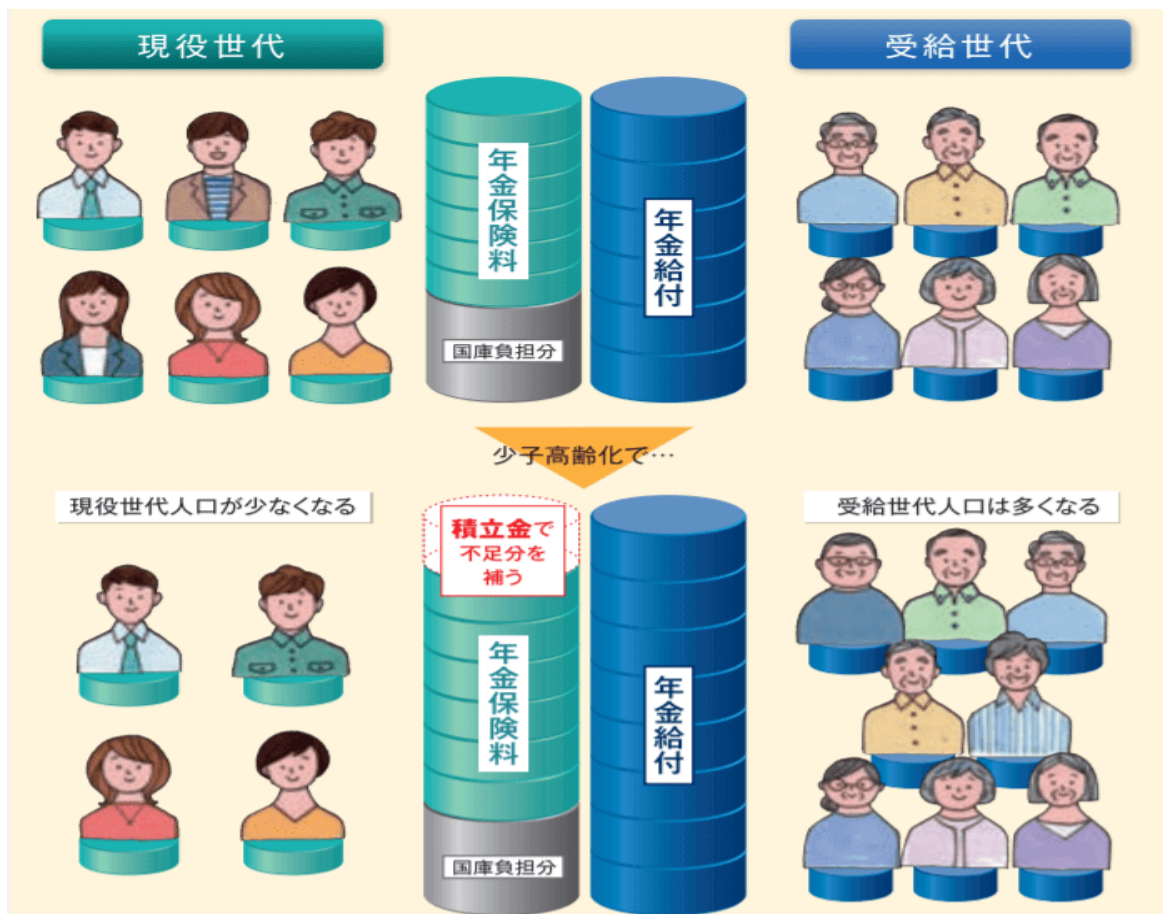
日本の年金制度は、現役世代の年金保険料が高齢者の年金になる「仕送り形式」になっています。



(出典：[GPIF「2020年度業務概況書」](#))

日本は人口が減少しているため、年金保険料だけで年金受給世代を支えようとすると、現役世代に重い負担がかかってしまいます。

そこで、未来の現役世代の負担を少しでも軽減するために、数十年後の財産を貯めておく仕組みが GPIF が運用している「年金積立金」です。



(出典：GPIF「2020年度業務概況書」)

積立金の運用が安定すれば、以下のようなメリットがあります。

### 積立金の運用が安定するメリット

現役世代の人口減少の影響を軽減できる

年金制度の運営が安定する

つまり年金積立金は、年金制度を安定させるためのパーツなのです。

ちなみに、年金の財源全体に占める年金積立金の割合は、10%ほどしかありません。

年金制度を走らせるメインエンジンは、あくまでも現役世代の保険料です。

そのため、仮に年金積立金の運用が上手くいかなくても、年金制度自体が破綻することはありません。

以上